

運営状況概要書

(株 5)

法人名：

株式会社 男鹿水族館

設立年月日 平成15年4月16日

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役 小西 司	資本金	100,000千円	県出資等額及び比率	51,000千円	(51.0%)	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課					
設立目的	魚、海獣等との触れ合いを通じた学習の機会を提供し、並びに県民の自然保護及び地球環境保全についての理解を深めるとともに、観光レクリエーション活動のための利便の増進を図る。												
事業概要	水族館の運営												
関連法令、県計画	なし												
役員数 (R6.7.1現在)	理事		監査役		評議員		計		職員数 (R6.4.1現在)	正職員	出向職員	臨時・嘱託	計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤		20		2	22
	1	4		1			1	5	※役員と職員を兼ねている者の人数は、役員と職員の両方に計上し、職員数には括弧（内数）で表示。				

2 法人の行動計画(令和4～7年度)

県関与のあり方	縮小・廃止	経営状況	概ね安定	取組の方向性	・内部留保の積み増し
目標	○直近(H28～R元年度)の実績等をもとに試算した経営安定ラインである有料来館者数の確保を目指す。 【目標】有料来館者数R4～7年度：165千人/年度				
取組	○生態の繁殖、科学的知見の積上げなどに関する情報発信強化（館内展示の充実） 【目標】解説パネル等の更新を年間1エリア以上実施 ○教育利用（校外学習・修学旅行等）の安定的な獲得及び福島以南等からの利用増加策の実施（R4年度に整備予定の「教育利用等誘客促進重点エリア」を活用し、県内含め福島以南等からの教育利用を積極的に誘致する。） 【目標】教育利用人数について、毎年5,000人を確保する。 ○SNS、館内サイン、ホームページなどによる情報発信強化 【目標】アンケートにおける「SNS、ホームページによる来館動機」10%増 ○男鹿半島観光、地元飲食店や小売店などとの連携強化 ○新型コロナウイルス感染症のガイドラインに沿った各種催事などの再開 【目標】前年度比で催事等を1回以上増加実施				

3 財務

①損益計算書

(単位:千円)

区 分	令和4年度	令和5年度
売上高	624,451	360,151
売上原価	325,911	74,173
売上総利益	298,540	285,978
販売費及び一般管理費	298,702	304,235
人件費（売上原価含む）	111,940	122,321
営業利益（損失）	△ 162	△ 18,257
営業外収益	8,669	10,832
営業外費用	107	144
経常利益（損失）	8,400	△ 7,569
特別利益	2,232	
特別損失	5,400	
法人税、住民税・事業税	1,420	△ 658
当期純利益（損失）	3,812	△ 6,911

②貸借対照表

(単位:千円)

区 分	令和4年度	令和5年度
流動資産	426,953	263,805
固定資産	8,652	8,956
資産計	435,605	272,761
流動負債	209,030	53,097
短期借入金		
固定負債		
長期借入金		
負債計	209,030	53,097
資本金	100,000	100,000
利益剰余金等	126,575	119,664
純資産計	226,575	219,664
負債・純資産計	435,605	272,761

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

<主な経営指標>

項 目	令和4年度	令和5年度	増減※
経常収支比率 (経常収益÷経常費用)	101.3%	98.0%	△3.3
流動比率 (流動資産÷流動負債)	204.3%	496.8%	+292.6
自己資本比率 (純資産計÷負債・純資産計)	52.0%	80.5%	+28.5
有利子負債比率 (有利子負債÷純資産計)			

※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

<退職給与引当状況（単位:千円）>

要支給額	引当額	引当率(%)
0	0	—

※中小企業退職共済制度に加入している。

③県の財政的関与の状況（事業費補助・委託を除く）

(単位:千円)

区 分	令和4年度	令和5年度	支出目的等
年間支出			
年度末残高			

運営状況評価表

(株5)

法人名：株式会社 男鹿水族館

I 自己評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況

【令和5年度実績】
○有料来館者数：149,020人（前年度：170,360人、目標：165,000人）
○解説パネル等の更新：ハタハタ博物館エリアのパネル更新（前年度：2エリア、目標：1エリア以上）
○教育利用者数：2,600人（主に県内利用で一部北海道。福島以南の実績なし。）
（前年度：6,695人、計画：5,000人）
○アンケートにおける「SNS、ホームページによる来館動機」：7.4%増
（前年度：61.1%減、目標：10%増）
○催事開催回数：前年度比7回増（なまはげダイバー、ふれあいイベントなど複数の企画を再開。）
（前年度：2回増、目標：1回以上増）

【自己評価】
○7月の豪雨災害が夏場の集客に影響したほか、教育利用はコロナ禍で県内に留まっていた学校が旅程を見直して県外に流れてしまったことから、有料来館者数及び教育利用者数の目標を達成することができなかった。
○一方、教育利用のうち、校外学習については、多目的ホールの利用を促したことに伴い、2,353人の実績となり、前年度実績2,321人を上回った。
○解説パネル等の更新に当たっては、ハタハタの漁獲量の近況情報など地域に根差した環境学習要素の高い展示を更新できた点は評価できるものと考えている。
○催事については、コロナ禍前の水準まで戻しながら運営している。また、多目的ホールを活用した事業も開催する事で利用者の満足度、利便性向上を図ることができている。
○今後は、有料来館者数等の目標達成に向けて、20周年に関わるイベントの開催や積極的な情報発信により来館者を増やしていきたい。

評価C

2 経営状況

【令和5年度実績】
○売上高：360,151千円（前年度：624,451千円）
○売上原価：74,173千円（前年度：325,911千円）
○販売費及び一般管理費：304,235千円（前年度：298,702千円）
○経常利益：△7,569千円（前年度：8,400千円）
○当期純利益：△6,911千円（前年度：3,812千円）

【自己評価】
○夏の豪雨災害や教育旅行の落ち込みにより入館者が減少し、売上についても減少した。
○仕入れ価格の高騰など厳しい経営環境であったが、清掃業務の内製化など精緻なコストコントロールを心がけた。
○収益面では、入館料の値上げによる単価アップを図ったほか、レストラン運営において男鹿海洋高校と連携したメニュー開発など新たな地域連携事業に取り組んだ。
○経費面では、依然水道光熱費が高止まりしており、収益を圧迫している。また、計画外での修繕費用の発生もあり、赤字決算となった。

評価B

II 所管課評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況

【所管課評価】
○豪雨災害により7月の有料来館者数が12,454人と前年度比で約9,300人減となるなど、大きな影響があった。
○ハタハタ博物館エリアのパネルの更新やコロナ禍前の水準でのイベント実施などにより利用者満足度の向上を図っている。

評価C

2 経営状況

【所管課評価】
○7月の豪雨災害や教育旅行の落ち込みによる利用料金収入の減少のほか、光熱水費をはじめとする物価高騰の影響もあり、赤字決算となった。
○水族館という事業の性質上、引き続き光熱水費等の高止まりの影響が懸念されることから、今後も適切に対応していく必要がある。

評価B

III 委員会評価

総合評価

法人全体の取組・運営状況に関するコメント

B

○行動計画に定める解説パネル等の更新や催事開催回数については目標を達成しているほか、男鹿海洋高校との地域連携事業を実施するなど、各種取組の実施については評価できるものである。
○一方で、豪雨災害等の影響により赤字決算となったことに加え、今後も物価高騰により費用の増加は避けられないことから、利益が出せるよう経営改善に努める必要がある。

【委員からの提言】

○水族館が所在する男鹿市については、洋上風力発電や宿泊施設の設置など、新たなまちづくりが進められていることから、これらの関連企業との連携による誘客促進等の動きについても期待したい。
○教育利用者数に関しては、前年度から大幅に減少していることから、リピーター確保の観点からも県内外の学校に対する積極的な働きかけが必要と考える。

委員会評価を踏まえた対応方針

法人の対応方針

○地域連携は最も重要な施策の一つと考えており、新規参入施設との相乗効果を最大限発揮し相互送客できるよう取組を進めていく。
○教育利用に関してはエリア一体となった活動が重要であるため、DMOや近隣観光施設と連携を強化していく。また、学校側の情報収集を行い、細かい要望にも対応しながら、男鹿半島全域の魅力と当館の特徴を生かしたプログラムの提案を行っていく。

所管課の対応方針

○光熱費等の高上がりの状況が続いていることから、経費の節減や業務の効率化を促す。
○展示物の更新や水族館ならではのイベントの企画等、水族館の魅力を高めるような取組を促していく。
○教育利用の促進を目的に多目的ホールやキッズスペース等を整備しており、引き続き、法人と連携して教育旅行等の団体客の誘客促進を図っていくとともに、男鹿市及び周辺近隣施設等との連携を促し、男鹿半島地域の観光の活性化につなげていく。